

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2227 号

Tadalafil is sufficiently effective for severe chronic prostatitis/chronic pelvic pain syndrome in patients with benign prostatic hyperplasia.

慢性前立腺炎/慢性骨盤痛症候群を合併する前立腺肥大症患者に対してタダラフィルは効果的である

平松 一平 (ひらまつ いっぺい)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、慢性前立腺炎/慢性骨盤痛症候群 (CP/CPPS) を合併した前立腺肥大症患者に対してタダラフィルが十分に効果的であることを初めて明らかにした臨床的に意義のある論文である。CP/CPPS は治療に難渋することが極めて多く、日々の診療において泌尿器科医を悩ます。これまで前立腺肥大症に対する治療薬である $\alpha 1$ 遮断薬、 5α 還元酵素阻害薬や、抗炎症作用を有する植物由来のセルニチンポーレンエキス、抗生剤等が試されてきたが CP/CPPS に対する効果は限定的であった。前立腺肥大症に CP/CPPS を合併する患者は多く、その原因に前立腺組織内の炎症細胞浸潤の関連が指摘されている。一方、2014 年に日本において PDE5 阻害薬であるタダラフィルが前立腺肥大症治療薬として保険適応となった。作用機序として前立腺、尿道、膀胱頸部の平滑筋弛緩作用、血管平滑筋弛緩による下部尿路組織の血流改善、膀胱求心性神経活動の抑制が挙げられているが、近年タダラフィルの抗炎症作用に対しても注目が集まってきている。前立腺肥大症に CP/CPPS を合併する群と非合併群に分けて、タダラフィルの効果を検討した。タダラフィルは排尿状態のみならず、疼痛症状も有意に改善させた。また、CP/CPPS 合併群の方が治療前の排尿状態が悪い傾向にあり、タダラフィルの投与により大きく排尿状態が改善した。これまで CP/CPPS を合併する前立腺肥大症は既存の $\alpha 1$ 遮断薬、 5α 還元酵素阻害薬に対して治療抵抗性を有することが指摘されていたため、今回の結果は臨床的に意義のある結果と言える。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。